

シラバス

(神戸大学・東京六甲クラブ・ミニ MBA 塾)

開 講 期 間	2013 年 1 月～2013 年 12 月（月 1 回・3 時間）
担 当 講 師	大住敏之（但し、「生産管理」を担当する講師は別途指名）
受 講 者	神戸大学の理工系学部卒業生 (希望があれば文系学部 or 他大学の理工系学部卒業生も)
講 義 概 要	・ 経済学・経営学の基礎ならびに関連分野（MBA コア科目に相当） ・ その背景にある考え方： i) 現代の我々は「組織」という世界に住んでいる。あらゆる「組織」の運営には経済学・経営学的思考を必要としている。 ii) 経済学・経営学的思考は、営利企業を対象としているが、実はあらゆる組織（役所・学校・病院・軍隊・美術館・自治会・NPO 等）のオペレーションに有効。 iii) 実社会に出て 10 年もすると、エンジニアであっても、マネジャー的業務に直面、MBA プログラムの知見が必要になる。（特に会計、財務、マーケティング、組織行動論） iv) アメリカの有力ビジネス・スクールでは、学部時代に理工系を専攻した者が半数以上を占めている。卒業後、Engineering + MBA というバックグラウンドを生かし、経営の第一線で実績を挙げている。（日本企業は未だ生産現場一流、本社三流から脱却できていない） v) 一般的な経営書によくある精神論・根性論もしくは理論拔きのハウツー・モノとは一線を画し、あくまで正統かつ国際標準の理論体系を核とする。実はこの方が実用性に優れ汎用性が高い。 vi) 日本以外の先進諸国・新興諸国は、世界標準の教科書を使い、実に効果的に経済・経営教育を行っている。偏狭な攘夷思想に捉われず、これらを最大限活用する。 vii) 情報洪水の中で流されないための軸・プリンシプル・インテグリティを身につけるには正統理論（Good Theory）に立脚した、しっかりとした思考訓練（Discipline of good thinking）が不可欠。

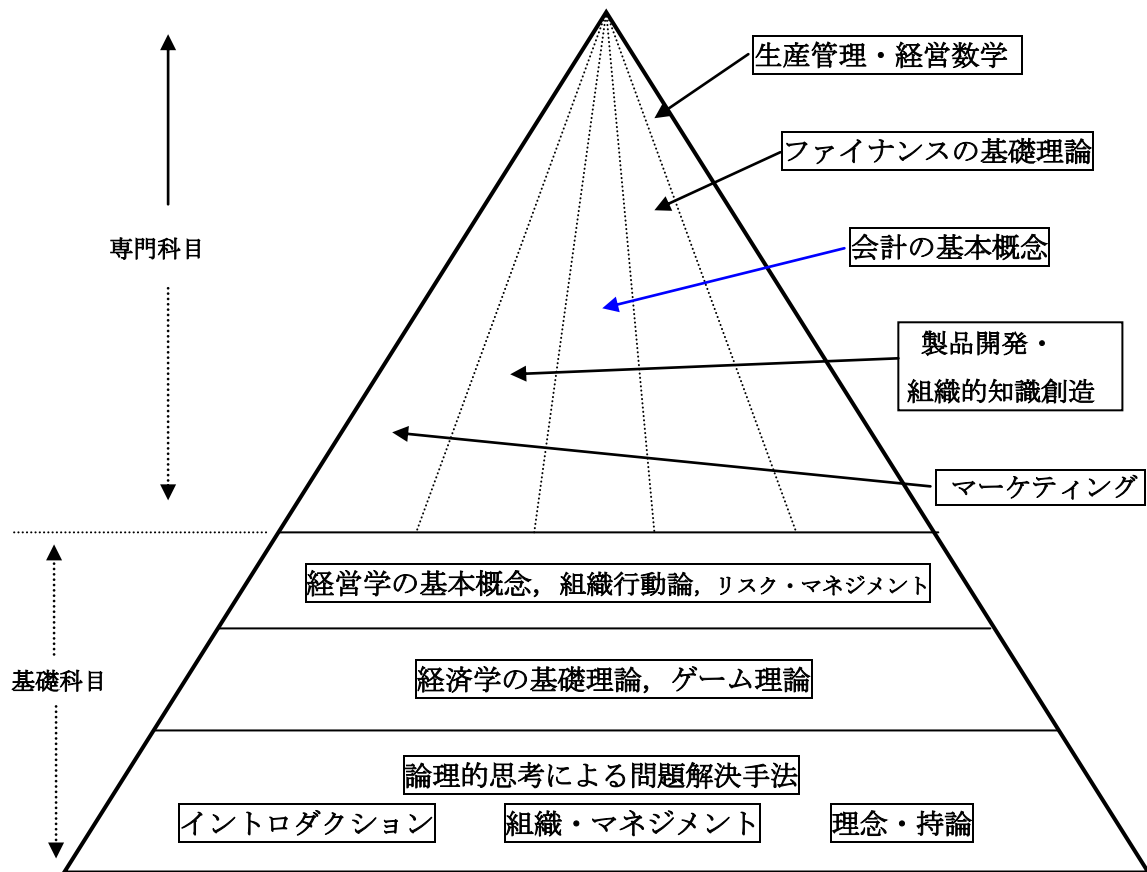
講義の モットー	・“良い理論ほど実践的なものはない” (There is nothing so useful as a good theory. ; クルト・レビン) ・良い理論は、自明でなく意外性があり、学ぶことが楽しい。常識と直感に基づく判断の過ちを正してくれる効能を有する。
受講資格・ 予備知識	・特になし、政治・経済・経営・行政に対する知的好奇心を持つ人物。
講義の 到達目標	・経済学・経営学のベースになっている基本的考え方、実践に有用な代表的理論・概念を体系的に理解。現実問題への適用事例を体得。 ・広く・体系的に MBA プログラムのエッセンスを学ぶことにより、量的・質的に最良のメソッドである「自学自習」能力を身につける。 ・現実の問題解決を論理思考で時間的・労力的に効率よく正しく行う能力。 ・対外交渉能力・外部専門業者（海外を含む）を評価・駆使する能力。 ・ロジカル・シンキングとライティング（説得力）の習得。
教材	・毎回 30~50 ページの独自テキストを事前に配布（MBA コア科目を網羅し理論的整合性の取れた市販の教科書は、残念ながら存在しない） ・配布テキストの事前熟読（リーディング・アサイメントーⅠ） ・別紙記載の 5 冊の書籍を読むこと（リーディング・アサイメントーⅡ）
講義方法	・テキストをプロジェクターでスクリーンに映しながら、少人数ゼミナール形式で説明（情報量が少なく真意が伝わらないので、パワーポイントは使用せず） ・質問・意見は随時 OK, 自由闊達な双方向授業。 ・毎回 30 分程度を費やして、日常業務上の実際の問題を取り上げその解決方法を議論。 ・カレント・イベント・リポート；講義で取り上げた課題と関連する記事を新聞・雑誌から選びその要約と自身の見解をまとめ 2 週間以内に提出。（指名により適宜クラスでプレゼンテーションも） ・クローズド・グループウェア活用により、クラスメンバーをネットでコネクトし、クラス外でも常時、質問・意見交換を行う。 ・講義時間は、六甲クラブのご厚意に甘えて、午後 7 時から 10 時まで、夕食と Drink 付き。

	・会社で中核業務を担っておられる皆さんの勤務状況に鑑み、一週間内に補講を実施。
講 義 日 程 & 内 容	1. イントロダクション-----1月31日（木） ① 自己紹介 ② 講義方針・プロトコール ③ ビジネス上の持論 ④ MBA プログラム 2. 問題解決手法-----2月26日（火） ① 論理思考による問題解決手法 ② 世界のマグニチュード理解 ③ 人口オーナス問題・タイムマシン経営 3. 経済学(I)-----3月29日（金） ① 経済学の基本コンセプト ② 経済モデル ③ 経済システム ④ 経済体制の歴史的展望 4. 経済学(II)-----4月26日（金） ① 産業組織論 ② 生産コスト ③ ビジネス経済学 ④ ゲーム理論 5. 経営学(I)-----5月31日（金） ① 経営学とは ② 会社組織 ③ 経営学の系譜 ④ 経営戦略論 6. 経営学(II)-----6月26日（水） ① 組織行動論（人的資源管理・リーダーシップ論） ② ブルー・オーシャン戦略 ③ リスク・マネジメント

《続く》	7. マーケティング論(I)----- 7月 31 日 (水) ① マーケティングの基本コンセプト ② マーケティング戦略・戦術 ③ サービス・マーケティング 8. マーケティング論(II)----- 8月 30 日 (金) ① デジタル時代のマーケティング ② ケース・スタディ (小企業の商品開発事例) 9. 製品開発 & 組織的知識創造-----9月 27 日 (金) ① 製品開発の本質 ② 製品開発とイノベーション ③ 製品開発プロセス ④ 組織的知識創造論 10. 会計学-----10月 25 日 (金) ① 会計の基本コンセプト ② 会計原則・基準 ③ 財務諸表 ④ 財務分析 ⑤ (ケース) 会計構造・プロセスの一体理解 11. ファイナンスの基礎理論-----11月 29 日 (金) ① ファイナンスの基本コンセプト ② DCF メソッド ③ 投資プロジェクト評価方法 ④ 企業価値評価方法 (CAPM, Beta, EVA) ⑤ ファイナンス理論上の留意事項 12. 生産管理 & まとめ-----12月 26 日 (木) <u>(講義のスタンス)</u> ・経済学・経営学の全領域を扱う講義 (経営学総論 or MOT) では, 専門に特化した教員が入れ替わり立ち替わり登壇し, 前後の脈絡に関係無く自分の専門分野を講じるのが通例だが, (生産管理を除き) 一人
-------------	---

	で担当するメリットを最大限生かして俯瞰的・横断的視点に焦点を当て、相互関連性、相互位置関係、多面性を強調する。 ・経済学・会計・ファイナンス理論を主軸にしながら経営学の各構成分野を論じる点に特徴がある。 ・現実の諸課題が、カリキュラムの科目別に分類されて存在しているわけではないし、組織図の業務職掌を尊重してやってくるわけでもない。
そ の 他	・冬・春にフィールド・サーベイを計画； ① JFE 千葉製鉄所見学 ② その他首都圏の企業見学

ミニ MBA 講義のアーキテクチャー



* 「生産管理・経営数学」は、日本企業の強い分野で重要な位置を占めているが、私自身に生産現場での「汗と涙の実体験」がないので、外部から適任者を招く（人に教えるときは“知っていることの25%以上を語るべきではない”との戒めを守るため）

* **参考** ① 経済学の定義：日常生活を営む人間に関する研究。（マーシャル）

社会がその希少資源をいかに管理するか研究する学問。（マンキュー）

② 経営学の基本：あらゆる先進社会が今や組織社会。企業のみならずあらゆる社会がマネジメントを必要としている（企業以外の組織が特に）。組織とは、凡人が集まって非凡なことを成し遂げるためにあるが、それを可能にするのがマネジメントである。（ドラッカー）

③ マーケティングの定義（一般社会の文脈で）：ターゲットとする相手から望ましい反応を得るための仕組みづくり。（コトラー）

自己紹介

- ・大住敏之 (Toshiyuki OSUMI, ©TLXXVI), 生れは兵庫県の日本海側の但馬国, 高校は篠山鳳鳴, 大学は神戸大経済学部 (1967 年卒, 新野先生の自称一番弟子).
- ・鉄鋼会社 (川鉄, 現 JFE) に 38 年間勤務, 退職後はビジネスとアカデミック半々.
- ・現在, ビジネス面では, 海外を含む数社の社外役員・顧問を務めている. 自分では, 依然としてバリバリの現役ビジネスマンのつもり (収益責任と雇用責任は出来るだけ負わないようにしているが).
- ・アカデミック面では, 2003 年より 9 年間, 青山学院理工学部大学院の兼任講師をさせてもらった (副学長に就任された教授の代講が始まり). 2007 年に, JICA プロジェクトによるマレーシア中小企業庁職員研修プログラムでマーケティング戦略を担当 (1 日 6 時間・5 日連続の英語による集中講義). 2008 年より, 立命館アジア・太平洋大学 (APU) で, 経営学 101 の講義を担当 (日本語コースと英語コースの両方, 教え子は 1,200 人超, 6 割が外国人学生)
- ・3 年前から故郷の養父市の市長の要請で, 若手職員 (事業家, 教職員も含む) を対象としたゼミナール形式の研修をスタート (月 1 回, 12 回). 今年から幹部コースも.
- ・川鉄で事務系留学制度 I 期生 (カリフォルニア大学バークレー, 1973 年 MBA). 専門はファイナンス理論, 会社では財務, 海外事業経営, 海外営業, 経営企画に従事 (米国に 2 度, アジアに 2 度駐在). 若い時から国際ビジネスの第一人者を自認, この分野でのトップの方の参謀役. ヘッド・ハンターの誘惑を退け鉄鋼会社でのキャリアを全うしたので, 企業組織のヒエラルキーの全職階でマネジメントを経験. 担当した職能はほぼ MBA コア科目をカバー. (理論を実践)
- ・学者ではないので, 高度な理論はよう教えられない. 理論の「クリエイター」ではなく, あくまで「ユーザー」. 理論を実務にどう役立てるかについては独創性に自負. バックに海外を含むブレイン・ネットワーク (産・官・学, 会計士・弁護士・コンサル, エンジニアのプロフェッショナル) を持っていて, 何でも教えてもらえるのが唯一の強み. 分からない事は一晩待ってもらえれば答えられる.
- ・ミンツバーグ教授の下記の言葉が心の支え: (“Managers Not MBAs”)
「私が経営教育で最も望ましいと思うのは, 教鞭をとる実務家 (パートタイム) で, 教育 40%, 研究 0%, 教務 10% (実務 50%) だ. この形態は, アカデミックな志向と卓越した教育スキルを持つ実務家が教鞭をとる場合のみ可能」
- ・現時点で私が目指している境地:
“*Half the time I am intellectual, the other half I am a no-nonsense practitioner. I am no-nonsense and practical in academic matters, and intellectual when it comes to practice.*” (N.N.Taleb, “ブラック・スワン” の著者の言葉)
- ・連絡先; e-mail: osumi76@hotmail.co.jp / iPhone: 080-1160-7309

リーディング・アサイメントーⅡ

（ 下記書籍を購入のうえ，期日までに読んでおいてください．講義中に推薦する参考図書は，事後に読んでいただければ結構です． ）

1. 『実力大競争時代の「超」勉強法』
・ 野口悠紀雄著・幻冬舎刊----- 2 月末
2. 『マネジャーの実像』
・ H. ミンツバーグ著・日経 BP 社刊----- 4 月末
3. 『ブルー・オーシャン戦略―競争のない世界を創造する―』
・ W.C. キム&レネ・モボルニュ著・ランダムハウス講談社刊----- 7 月末
4. 『失敗の本質―日本軍の組織論的研究―』
・ 野中郁次郎他著・中公文庫刊----- 9 月末
5. 『文明―西洋が覇権をとれた 6 つの真因』
・ ニアル・ファーガソン著・勁草書房刊----- 1 1 月末

事前提出書類

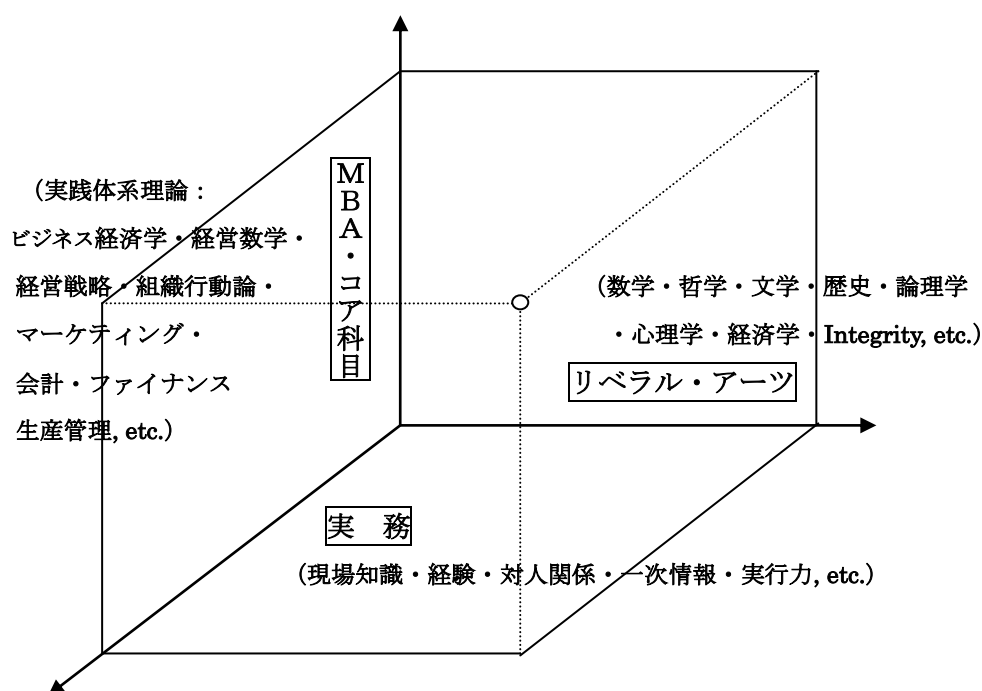
- ・ 別添のフォーマットによる「自己紹介」を，1 月 2 0 日（日）までに下記メールアドレス宛に提出してください．

osumi76@hotmail.co.jp

《参考》

MBA コア科目の位置づけ

1. 組織のマネジメントを考える際に、2次元ではなく3次元をイメージする。
即ち、「リベラル・アーツ」と「日常の実務」と言う2軸で構成される基盤に、縦軸として「実践体系理論」が存在する立体構造を頭に描いて欲しい。



2. 実践体系理論は、組織を運営するプロフェッショナル・マネジャー（ビジネスだけでなく行政も含む）が習得・会得しなければならないサブジェクトである。業務執行上体得せねばならない現場知見，業務知識を横断し，俯瞰する基礎理論・基礎概念で，現実の経営現象を理論化し（即ち，個別具体的な事象の背後にある論理を明らかにし），現実へのより深い理解と洞察力，問題解決への思考を可能にするものである。
3. これを体系化し国際標準プロトコールとなっているのが，MBA コア科目で，世界各国（欧米だけではなく，日本以外のほとんどの国）で 50 年余の教育実績を重ね，年間何十万人という大学院生を対象に成果を上げてきた世界標準の優れた教科書・教育メソッドでサポートされている。
4. 学問（MBA コア科目も含む）の基盤であるリベラル・アーツ，アカデミックな抽象論・純粹理論・高踏理論ではなく，一方，現場密着の OJT，現場知識・経験，専門学校等の実務教育でもない。この二つを基本要素として，経営の理論化・応用性を高める。
5. 当然ながら，コンサル会社，セミナー屋が提供してきた，軽薄で時勢に乗ったハウツー物で面白可笑しい社員研修用エッセ経営学・経験論・精神論・根性論でもない。

(9/15/11)

©TLXXVI